

# 公益財団法人 日本下水道新技術機構

## 第19回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成29年6月22日(木) 15時30分から16時35分
- 2 開催された場所 公益財団法人 日本下水道新技術機構 8階特別会議室
- 3 理事総数 7名
- 4 出席理事数 6名  
(出席) 江藤 隆 塩路 勝久 大村 達夫 小山 俊彦  
齋藤 正勝 福井 聡  
(監事出席) 穂本 守雄 丸山 淳一
- 5 議案及び報告事項  
議案(決議事項)  
第1号議案 代表理事の選任に関する件  
第2号議案 業務執行理事の選任に関する件  
その他報告事項  
(1) 中期事業計画フォローアップ  
(2) 管路マネジメント推進のための検討会
- 6 議事の経過の要領及びその結果
  - (1) 議決に加わらない決議事項への事前申し出及び議決数の報告  
神原事務局長から、理事の中で、特別の利害関係を有するため議決に加わることができない決議事項があれば議決の前に議長に申し出をされるよう説明があった。そのうえで、本理事会の出席者数は6名出席であり、特別の利害関係を有すると申し出をされる理事がいなければ、本理事会での決議事項は成立することの報告があった。
  - (2) 議長の選出  
神原事務局長から、理事会運営規則第6条第1項の規定により、「理事会の議長は、理事長がこれに当たる」と定められているが、現在、理事長が不在であるとの説明があり、議長を出席理事の中から選出することとしたところ、大村理事から江藤理事を推薦する発言があり、ほかに推薦がなかったことから、江藤理事が議長を務めることとなった。
  - (3) 議事録署名人の報告  
江藤議長から議事録署名人は、定款第43条第2項の規定により出席した代表理事及び監事であることから、このあと選任された代表理事と穂本、丸山両監事が議事録署名人になることの報告があった。
  - (4) 議案の審議状況及び議決結果等  
○決議事項  
第1号議案 代表理事の選任に関する件  
事務局から、本日(6月22日)開催された第11回評議員会において、別紙のとおり、7名の理事が選任されたことの報告の後、代表理事の選任について、これまでの経緯も含め役員推薦委員会報告により理事長には江藤候補の再任が適当であるとの報告があったことについて説明があった。

このあと、江藤議長から、定款上は「理事長及び専務理事は、理事会の決議によって理事の中から選任する」となっておりますが、役員推薦委員会では、その性格に鑑み、常勤理事と非常勤理事を念頭に検討を進めた結果、権限外ではあるかもしれませんが理事長及び専務理事候補者についてご推薦いただいたとの補足説明があった。

このあと、議案の審議に移り、議長から、本議案の代表理事の選任に関し提案、意見等を求めたところ、大村理事から、代表理事に江藤理事を推薦する発言があった。

議長は、ほかに提案及び意見等を求めたが発言がなかったので、代表理事に江藤理事を選任することについて諮ったところ、出席理事全員一致で可決した。

なお、被選任者である江藤理事は、席上その就任を承諾した。

選任された代表理事の氏名は以下のとおりである。

代表理事 江藤 隆

#### 第2号議案 業務執行理事の選任に関する件

事務局から、役員評価委員会において、役員推薦委員会から情報提供のあった塩路理事の経歴書及び同氏を候補者とした理由等の関係書類を審査のうえ面接を実施して審議をした結果、本機構の専務理事として適任であるとの評価をいただいたことの説明があった。

このあと、議案の審議に移り、議長から、本議案の業務執行理事の選任に関し提案、意見等を求めたところ、大村理事から、業務執行理事に塩路理事を推薦する発言があった。

議長は、ほかに提案及び意見等を求めたが発言がなかったので、業務執行理事に塩路理事を選任することについて諮ったところ、出席理事全員一致で可決した。

なお、被選任者である塩路理事は、席上その就任を承諾した。

選任された業務執行理事の氏名は以下のとおりである。

業務執行理事 塩路 勝久

#### その他報告事項

##### (1) 中期事業計画フォローアップの報告

事務局より、平成28年5月に策定した平成28年から5か年間の中期事業計画について、計画目標の達成に向け、平成28年度の進捗を振り返り評価するとともに、必要に応じ29年度以降の取組を見直すなど、事業の進捗や社会経済情勢の変化に対応したフォローアップについて資料やパンフレットを使用して報告があった。

このあと、同報告に関して次の発言・質疑応答があった。

齋藤理事 横浜市の下水道関係OBと現役で年1回技術交流を実施しているが、毎回議論になるのが、これから金もなく、人もいない中で膨大な資産の運用と更新をどうするのか、何かいい知恵がないものかということである。機構はそういう事にも積極的に取組んでいるという事から、今後何かいいアイデアが出ることを期待したい。

事務局 機構でも、ストックマネジメントやそのベースとなる調査・技術開発をしており政令市との技術開発連絡会議や中核都市との会議あるいは中小

都市へ出向きヒアリングを実施するなど、それぞれの実情に合った技術を開発し合理的・効率的なストックマネジメントを作成していく手法を民間とも連携しながら研究している。

福井理事 各都市が、人材がない、金がない中でストックだけは山積している時代ですので管路の包括委託に取り組んでいることや、管路診断についてはどこまで実施するかはあるが、効率的に実施することは大事なことで、是非、自治体のお役に立っていただきたい。

江藤理事長 事務局から管路の包括等の状況を紹介してください。

事務局 官民連携して、下水道のアセット、あるいはストックマネジメントを支えていく状況にある中で、機構としては特に下水道管路の維持管理の包括的民間委託を促進していく必要があるのではないかとという事で、管路の包括委託が進むようなビジネスモデルあるいは、それをマネジメントして、これを推進できるような形態、第三者的機関の在り方など研究をしている状況です。

小山理事 従来は下水道事業の中での官民が連携して技術開発面でも取り組んできたと思いますが、昨今は、再生可能エネルギー、固定価格買取制度あるいは水素利用といった下水道資源エネルギー面の有効活用といった観点から、下水道事業者側からエネルギー事業者への接触、もしくは、流通、具体的には電力流通、自動車用燃料との接触が増えていると感じている。従来とは違った世界に対して一步踏み込まれていると見える。ただ、エネルギーとか流通の世界に対しては不慣れなのかと感じている。ただしポテンシャルを持っていることは自ら自覚しているが、技術開発面、運用面といった意味で研究とか、新たな事業者とのコラボレーションとか、もしくは色々な補完活動が必要ではないかと思えます。今後、事業計画の中にも地域バイオマス活用等について書かれておりますように、新たな世界と接触を始めているように見えますので、従来と勝手の違った面もあると思うが、外の世界との交流も必要になると思われますので、その辺の研究を新たに進めていただきたい。

大村理事 下水道のバイオマス等からガスへの変換は社内ではどの程度期待されているのか、実際議論はされているのか伺いたい

小山理事 再生可能エネルギーについては、太陽光や風力といったものは期待して、指導してやっているが、量を増やすということから、固定価格買取制度という面が強調されており、ある意味、国民負担が増すことになるが、下水道事業者もポテンシャルをもって、今までは自分たちの中で活用していたものが外へ出ることになる。私どもとしては地域に根差した会社ですから国民負担が減るような地域の資源をうまく活用する方法はないか、常に考えている。ですから手っ取り早く財政面で効果を得られるが、これからはそういう議論も必要ではないかと思っている。

大村理事 確かに、地域によっては非常にバイオマスが使い易いところと、使いにくいところがあるので、下水道のバイオマスだけでなく地域のバイオマスを取り込んだ形で議論していくと、関係者と実際にきちっとした議論ができるようなものがたくさん出てくると思う。

事務局 まず下水道内部で使うこととして、下水処理場は色々な機能をもっている所以地域の色々なバイオマスを受け入れる事は十分可能だが、自治体の意識が低く、特に下水道事業者の意識が低いことから進んでいないのが実態である。機構としては少しでもそういう気持ちのある自治体には支援をしていきたい。

大村理事 いままで、機構では地域の生ごみを受け入れて発電をするような新技術

を開発してきているので、そのようないい技術があるので、ガス会社とタイアップするような枠組みができれば良いと思う。

江藤理事 長 私どもも、マニュアルを作成して、複合バイオマスといいますか総合バイオマスを推進していきたいと取組んでいる最中ですので、今後ともご指導ご助言をいただきながら進めていきたい。

大村理事 パンフレットの中期的な取り組みの考え方と主な研究項目の3番目で、新たな価値の創造として地域バイオマスの活用も入っておりますが、これ以外でも下水道の持っている価値化できるものがいっぱいあると思うが、ビックデータもそうですが、これを活用することによって地域創生に役立つ技術開発を行っていただけるよう議論を進めていただき、これを目玉にやっていただけるとありがたい。

事務局 新たな価値の創造のところは、色んなものが、どんどん膨らんでいく可能性があるところですよ。また、昨年の5月の理事会でもビックデータの話で、下水道の水量や水質で地域の状況が読めるのではないかなどのお話もいただいております、今後とも色んな視点でこの新たな価値と下水道を結び付けていくような努力をしていきたいと思っております。

江藤理事 長 非常に重要なテーマであると思っております。そういう発想、取組が大事だと思います。そういう面でも大村先生はじめ皆様のご助言ご指導を頂きながら取組んでまいりたいと思っております。

丸山監事 このような形で整理をされて、いい事だと思います。1年目ではなかなか取組の成果は出ないかもしれませんが、今後は、色んな意見も出ておりますので、それらを踏まえた成果を体系づけするなどして報告するよう期待しております。

穂本監事 長期計画というか5カ年で実施するものと、28年度の特定期間準備資金1,100万円のように早期に結果を出すものを切り分けて、長期のものについては5年間で成果を出せばいいし、特別の目的のために制度に沿って引当てたものは直ぐに成果を出して社会に還元するというか報告するなど、短期で成果を出すものと、長期で成果を出すものを分けて報告願いたい。

江藤理事 長 成果を意識して計画を進めていきたいと思っております。機構の特徴といいますか時間をかけてじっくりという研究よりも、わりと短期間で着実に成果を出して、ステップアップをしていく取組が機構の長所だと考えておりますので、成果を意識して取組んでいきたいと思っております。

## (2) 管路マネジメント推進のための検討会

塩路専務理事より、下水道事業の健全な発展と持続的な継続を図るため、下水道管路のマネジメントサイクルを的確に回していく際の諸課題を速やかに議論し、対策を講じるための方策、民間としての組織体制のあり方について検討するため、下水道管路に関係が深くかつその趣旨に賛同する企業、協会等の代表者で構成する「下水道管路マネジメント推進のための検討会」を立ち上げ、平成29年5月26日に第1回検討会を開催し、座長を選出したうえで、検討会の進め方について意見交換を行い、今後の検討内容として、課題1管路関係の問題点の整理及び課題2他分野での検討体制の研究をしていくこととし、検討会を月1回のペースで開催して、10月下旬を目途に検討会としての取り纏めを行いたいとの報告があった。

このあと、同報告に関して次の発言・質疑応答があった。

大村理事 非常に重要なテーマだと思います。60年経過し管も老朽化して大体の管路は道路の下を走っているのが陥没があれば大変なことになるので管路の管理は大事な事だと思う。会合をやって問題点を洗い出すと思うが、

そのあと問題をこれからどう解決しようとしているのか制度的なものは比較的早く解決できると思うが、ただ技術的なものは時間がかかるはずだがその辺の取組をどこまで議論しようとしているのか教えていただきたい。

塩路専務理事 正直なところ、どこまで議論できるかまではいっていないが、その議論はしたいとは思っております。まずは、一番の目的は民間の方が集まって、どうしていくかの議論の場を作りたいという事です。色んなレベルがあると思うが、その議論の場で議論をしていきたい。大村理事言われたような具体的にどうしていくかは、その議論の場で議論していくことになると思っております。

大村理事 是非そちらの方向で展開していただくと、よりベストな下水管路の管理ができると思うが、まず、問題を明らかにしないといけないのはよくわかります。そのあとどうするか議論する。ちょっと面白いですが、他分野での検討体制の研究の中に映画産業団体連合会やスポーツ健康産業団体連合会はどういう意味合いで入っているのか教えていただきたい。

塩路専務理事 入っているわけではなく、研究しようと考えている団体で、例えば、スポーツ健康産業団体連合には、ゴルフ協会や薬のサプリメントの健康の協会、保養所の協会など、それぞれ個々の団体があるんですね、そういう方々がスポーツ健康産業関係連合会を組織して、スポーツ健康産業を推進していく観点から横串の問題点に取り組んでいる。下水道もコンサルや維持管理や更生の団体などあるが、それらに横串を刺せる団体の一つの例といますか、必ずしも組織ありきではないがイメージとして勉強してはどうかと考えている。

大村理事 下水道の価値化ではないが、他分野の人をからめて、こういう議論をするという事は非常に良い事なので、どうして、こういう団体が入るのかと思ったところ。

塩路専務理事 組織形態の勉強のために、このような連合会について勉強するという事で、これらの団体と連携して議論するという事ではない。

齋藤理事 他分野の検討ということを考えて、下水道は道路の地下埋設物ということから、水道とかガスとかの事業が一番身近であるいは同じような課題を持っているかもしれませんが、これらには連合会のような団体が無いんですね。

塩路専務理事 道路占用者会議はありますが、それは、あくまでも道路管理者が集めたもので、共通の課題を検討するようなものではない。

齋藤理事 水道事業でもコンサルや建設会社で維持管理をやっているところがあるが、共通の課題に対してこういう集まって検討するような団体は無いんですね。

塩路専務理事 微妙といますか、水道協会では実施しており、下水道協会でも一部は実施しているが、下水道協会はあくまで発注者の団体であり、受注者の企業が主になって検討するようなものではない。一つには下水道協会がもっと実施したらどうかという議論もありますが、何が良いのか、まず、みんなで集まって議論するという事です。

齋藤理事 まずは集まって問題点を議論しようという事ですね。

塩路専務理事 連合会というのはネットで調べたところあまり無いんです。例えば住宅生産団体連合会はツーバイフォー工法協会とか木造住宅産業協会など家に関するそれぞれに協会があり、それらが集まって問題点に横串を刺す。あるいは、商業施設技術団体連合会は店舗デザインとかマネキンディスプレイ協会などが集まって、どうやって店舗を効率的にアピールできる



かなど横串を刺して集まっている団体ですが、そういう団体を勉強しながらどんなことができる検討していきたい。

江藤理事長 水道も水団連という団体があるが、大村理事が言われるような共同で研究開発に取り組むような団体にはなっていない。共通・横断的に取り組む技術的な課題は沢山あるので、それをどういう仕組みで、取り組んでいけるか議論ができればと考えております。

以上をもって議案及び報告事項について、すべて終了したので、16時35分、議長は閉会を宣し、解散した。



以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事及び監事は記名押印する。

平成 29 年 6 月 22 日

代表理事

江藤 隆



監 事

穂本 守雄



監 事

丸山 淳一

